

北海道バイオマスネットワーク会議（第1回）開催結果概要

と き：平成17年9月21日(水)

13:30-16:30

ところ：道庁赤れんが庁舎

2階1号会議室

1 開会（循環課主幹）

2 挨拶（循環課課長）

3 設置要綱等について（循環課主幹）

事前に配布していた会議設置要綱（資料2）及び会議構成メンバー（資料3）で会議を構成すること、会議の会長については、北海道大学大学院の古市教授とすることについて説明。

4 議題（以下の議事進行は会長）

(1) 会長挨拶要旨

会議設立のポイントは大きく二点で、まず、北海道循環型社会推進基本計画の重点項目であるバイオマス利活用が一点目。二点目は、北海道は広大な国土があり、その中でバイオマスが広く薄くいろいろな地域特性があり、画一的な政策展開は難しい。そのためのネットワークを構築していく必要があるということ。

道の循環基本計画のバイオマスの利活用の推進は、本当に北海道らしいと感じており、道民が一丸となって推進していくためのベースとしてこの会議があると考えていただきたい。また、二点目について、幅広いネットワークを構築するにハブが重要で、幸い全道では地域でいろいろな取組がなされている。ハブをネットワークと結んでいくことで情報が全道にいち早く伝わり実施される、そういう仕組みづくりをしたい。

(2) 北海道におけるバイオマス利活用の取組とネットワーク会議設立について

（事務局説明）

資料1及び資料4に基づき説明。

(3) 今後の活動内容について（事務局説明）

資料5及び資料6に基づき説明。

質疑等は以下のとおり。

- ・ 地域に対する支援の内容は。
この会議でできること、個別に対応することいろいろあるが、具体的な要望に応じることから対応したい。
- ・ 今回は3地域を取り上げているが他の地域の位置付けは。
3地域は事例として取り上げるなど情報交換・取組状況などの共有化を図っていくが、他の地域についても十分な情報交換を図っていきたい。
- ・ 道の支援としては、情報収集のみでなく具体的な支援も必要ではないか。
具体的な提案があればそれを踏まえて新たな部会設置や部会運営などを進めたい。
- ・ 全体的なテーマとしては廃棄物系主体という印象であるが、農業系の対応は。
今回は生ごみなど他の部局が取り組んでいない廃棄物系に絞っているが、家畜ふん尿などとの複合利用も視野に入れて考える必要がある。関係部と調整すべき事項もあれば、必要に応じ検討する。

- ・ この会議で目標年次などをもって進めるのか。
北海道循環型社会推進基本計画の目標年次は平成22年度で、その目標達成が大きなねらいであるが、本会議は特に年次計画は定めていない。

(4) バイオマス利活用に係る地域の取組について及び意見交換

十勝バイオマス利活用促進会議の取組

- ・ ワンストップサービス拠点とは具体的に何か。
ワンストップサービス拠点とは、この会議そのもの。会議に所属していれば事業化に向けた様々なメリットが得られるような体制を目指している。そのため、事務局は民間に移行し会費制の導入を検討しする。事務局はNPO法人等に移管を検討している。
- ・ 木質ペレットについては、河川や道路の刈草のペレット化の可能性はどうか。
十勝の取組は木質のみの検討であるが、道内の網走・北見の事例や、イギリスでも検討されたと聞いている。

積雪・寒冷地における環境・資源循環プロジェクト

- ・ 消化液の利用研究について、実際に農家で散布しているのか、またその結果は。
消化液に有害成分がないことはわかっている。具体的な牧草地・畑作農地への散布は道農試にお願いしたいが、目立った不具合はないと聞いている。
圃場への試験施用については特に問題ないが、実際に畑作農家で施用することを想定すると、施用に関する問題（装備、手間）、廃棄物原料のものを畑に撒くこと的心情的な問題、慣用資材と比較する中での具体的メリット（価格、効果）、動機付けの問題、窒素・カリが過剰になる問題、等が考えられる。
できた液肥の品質だけで売るのでなく、生産者や使用者への支援等トータルな施策の検討も必要である。

バイオマスランドそらちの形成に向けて

- ・ バイオガスプラントに関し、生ごみの運営コストはどの程度か。
家畜ふん尿との処理費用（収集運搬含む）の比較は、誰がそれを負担するかという問題もあり単純比較はできない。生ごみのほうが高いのは排水処理の部分が大きいと思われる。

白老町におけるバイオマスの取組

- ・ 廃食用油を燃料として使用しているとのことであるが、冬期の流動性も問題にはどのように対処しているか。
軽油代替燃料の冬期対策としては、油への工夫（セルロース添加、高室温でのろ過）、アメリカで市販されているエンジンルームキットの使用、軽油と代替燃料の交互使用を講じている。

(5) その他

北海道の観光振興には、クリーンなイメージが大事で、バイオガスでエネルギー化し、後はただ液肥で撒くだけではなく、窒素にも気を遣うなど環境汚染にも配慮が必要である。

石狩のバイオマスネットワークでも、観光をバイオマスと組み合わせ、グリーンビジネス、環境ビジネスと観光をタイアップさせるような取組も面白いのではという意見もある。

有機性資源の有効利用としては堆肥化が多いが、窒素面から見ると農地還元により過剰となり、環境影響が生ずることもある。こういう会議で、新たな利用に向けた技術開発にも取り組んでいくのか。

この会議の中で、新たな技術開発を直接やるというのは難しいと思うが、ここで出された意見を一つのヒントに、既存の研究開発の制度の中でできるものがあるれば検討に乗っていくなど、できるところから支援して行きたい。

オール北海道としてバイオマスに関する全体的な情報交換とするには、今回集ま

っている団体では少ないと思うが。

メンバーはコンクリートではない。今後必要があれば増やしていきたいし、参加したいということがあれば、是非参加していただきたい。

会議は縦型ではなく横型ネットワークであり、緩やかな連携組織の構築を目指しているもの。

イメージ戦略という話があったが、北海道はバイオマスを一生懸命やってるということを前面に打ち出すキャッチフレーズ的なものも必要か。

キャッチコピーなど募集の提案について、事務局で少し検討願いたい